

第9回ガイドスケジュール（予約不要）

日にち	テーマNo.	午前の部【9:30-12:00】	テーマNo.	午後の部【13:30-16:00】
6月10日(土)	8	狭山の馬車鉄道と清水宗徳	6	国を支えた蚕糸業が残したもの
6月11日(日)	3	入間川と地域の人々との関わり	5	広瀬斜子織
6月13日(火)	4	新田の開発	1	狭山の地層:仏子層
6月14日(水)	9	川越狭山工業団地と狭山の歩み	7	むかしの農家の生活用具
6月15日(木)	6	国を支えた蚕糸業が残したもの	1	狭山の地層:仏子層
6月16日(金)	8	狭山の馬車鉄道と清水宗徳	3	入間川と地域の人々との関わり
6月17日(土)	4	新田の開発	7	むかしの農家の生活用具
6月18日(日)	5	広瀬斜子織	2	やきものから美術を考える
6月20日(火)	3	入間川と地域の人々との関わり	1	狭山の地層:仏子層
6月21日(水)	6	国を支えた蚕糸業が残したもの	4	新田の開発
6月22日(木)	9	川越狭山工業団地と狭山の歩み	7	むかしの農家の生活用具
6月23日(金)	2	やきものから美術を考える	5	広瀬斜子織
6月24日(土)	9	川越狭山工業団地と狭山の歩み	8	狭山の馬車鉄道と清水宗徳
6月25日(日)	1	狭山の地層:仏子層	2	やきものから美術を考える

地域の学び推奨事業

博物館ボランティア

さやまナビーズ



開催期間

令和5年6月10日(土)~6月25日(日)

※ガイドスケジュールに示された時間中は担当解説員が常設展示室に常駐しています。

解説希望の方は、スタッフもしくはガイドまでお声がけ下さい。

なお、解説テーマが当日変更となる場合もあります。予めご了承下さい。

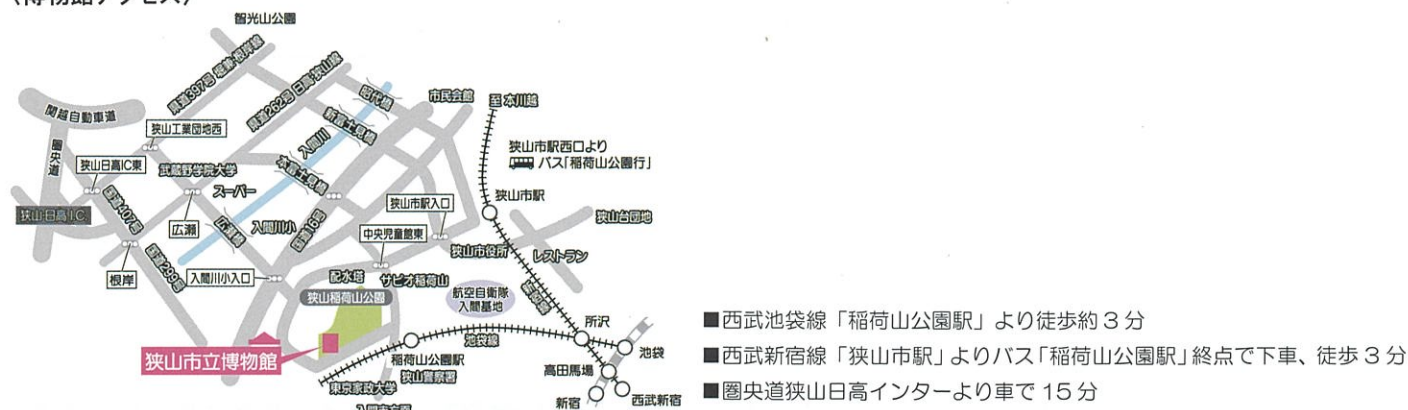
※常設展示室への入場は、博物館入館料が必要になります。

※ガイドツアーの参加者人数は、20名を上限とさせていただきます。ご了承下さい。

※事情により各種予定が変更になる場合があります。

※ご来館は公共交通機関のご利用をお勧めしております。

〈博物館アクセス〉



ごあいさつ

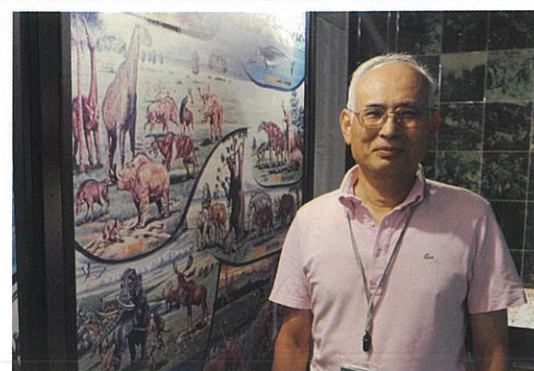
狭山市立博物館では、博物館ボランティア(さやまナビーズ)の皆さんが常設展示を解説するガイドツアーを行っています。平成30年度の春に第1回を行い、好評につき毎年開催して9回目を迎えます。今回は9名のメンバーがそれぞれ興味深いテーマで解説を行って下さる予定です。是非多くのガイドさんの解説を聞きにいらして下さい。

また、ボランティアガイドメンバーは随時募集しております。ご興味のある方は、お気軽に博物館スタッフまでお問い合わせください。

狭山市立博物館 館長 尾澤栄一



第9回常設展ガイドツアー テーマ&ガイド紹介 全9種



テーマ No.1

「狭山の地層：仏子層」

ガイド 加藤 進

仏子層とは、関東平野西縁部に位置する加治丘陵や入間川沿いに分布する地層です。昭和60年(1985)、狭山市笹井で発掘されたアケボノゾウは、仏子層から見つかりました。

今回は、この仏子層の特徴に加え、深井戸の資料から推測される地下の仏子層についても説明します。

テーマ No.2

「やきものから美術を考える」

ガイド 木下 義寛

常設展示室にあるやきものは、美術的な意図のもとに作られたものが多くあります。

いつ頃から人々は美を意識したモノづくりを始めたのか、日本独自の美意識とは一体何なのかについて、やきものを通じて見ていきたいと思います。



テーマ No.3

「入間川と地域の人々との関わり」

ガイド 川田 みな子

入間川は狭山市域の人々にとって農業用水や、漁場といった恵みの川でした。その一方で、時折干ばつに悩まされ、また一度雨が続きばたまち大洪水を引き起こす厄介な川でもありました。

流域の人々が知恵と工夫でどのように入間川と付き合ってきたのか、館内の展示からピックアップしてご案内します。

テーマ No.4

「新田の開発」

ガイド 井口 孝之

江戸時代の狭山では、主に段丘地帯を中心に、農民たちや藩などによって新田開発が多く行われました。

今回は、川越藩による中新田、堀兼、上赤坂、水野の大規模な新田開発や、開発に関わった川越藩主などから、江戸時代の狭山の開発について紹介します。



テーマ No.5

「広瀬斜子織」

ガイド 田崎 純子

広瀬は、江戸時代からナナコ織と呼ばれる絹織物の産地でした。絹の原糸を入間川の水で精練すると良い質の糸となり、ハリのある独特の風合は高級な織物として好まれました。

現在も狭山市内で復元に取り組んでいるグループもあります。この狭山の織物、広瀬斜子織についてご紹介します。

テーマ No.6

「国を支えた蚕糸業が残したもの」

ガイド 柿沼 朗

蚕糸業とは、繭をつくる養蚕業と生糸をつくる製糸業を中心とした産業で、かつての日本を支えました。狭山市域でも蚕糸業が盛んでしたが、現在はほとんど行われていません。

蚕糸業に関する展示品から、蚕糸業が国を支えた時代を見ていきましょう。



テーマ No.7

「むかしの農家の生活用具」

ガイド 岡本 富美子

つい少し前、昭和期の農家の生活用具には、今では見ることのできない道具がたくさんあります。電気がまだまだ普及していない時代の道具には、見方を変えると、現在の防災の視点から役立つかも？というものもあります。懐かしい道具というだけでなく、昔の農家の生活用具について、お話します。

テーマ No.8

「狭山の馬車鉄道と清水宗徳」

ガイド 石川 隆

川越と国分寺を結ぶ川越鉄道が明治28年(1895)に開通すると、川越鉄道と飯能地域とを結ぶ、入間馬車鉄道が敷設されます。明治34年(1901)から大正6年(1917)まで、わずか17年間の運用でした。設立に深い関係のある清水宗徳は、狭山の様々な産業振興に携わっていますが、その軌跡もからめてご紹介します。



テーマ No.9

「川越狭山工業団地と狭山の歩み」

ガイド 石川 千穂

川越狭山工業団地は、昭和39年(1964)に設置された、川越市から狭山市にいたる非常に大きな工業団地です。この工業団地は様々な側面で狭山市に影響を与えているとされています。

工業団地と狭山市の関係性や、市に与えた影響について解説します。

ガイドツアーに関するお問い合わせは狭山市立博物館(☎04-2955-3804)まで